

矢筈草

按矢筈草出野堤小草也、小葉似槐及奴柘イヌツク而長抱莖生高二尺許、枝條希而如薯蕷イモハダ之輩、秋葉交結、小花穗微似帚草穗、其葉及晚景則如萎如睡、朝乃如故也。

董董菜 出于前 眞矢筈草矣、此草名矢筈之謂未審。

土園兒

〔倭訓采保前編二十八〕ほど〇中 土園兒をいへり、蔓の長きに間ありて、芋子の如き丸根多く連り附り、よて名くるなるべし、飛驒にてはふとといひ、遠江のあたりには岡ぐわゐる、藤ぐわゐるなどもいへり、〇中 土芋をもよめり。

〔和漢三才圖會柔滑菜〕土芋 土卵 土豆 黃獨本草綱目 土園兒救荒本草 地栗子 同上 俗云保止

本綱、土芋蔓生葉如豆、其根似芋而圓如卵、肉白皮黃、生食吐人、以灰汁煮食甘美。

根甘辛寒有小毒 解諸藥毒、生研水服、當吐出惡物。

按土芋北地有之、畿内種之者希、與州津輕人、端午日角黍土芋相並食之、以爲嘉例、黃獨別此一種、爲土芋異名者也、非也。

〔成形圖說二十二〕保度即土芋なり〇中略

此もの山林に生ず、亦人家に種るなり、蔓細く、葉山芋に似て五葉一處に出づ、根蔓長く連茹つらて、卵の如き芋許多も著り、味甘美にして亦山芋に似たり、北地奥邊オホに衆し、灰汁を以て煮食ふ、但鐵器を忌ともいへり。

〔甲斐國志百二十三〕產物及製造 一苦蕷 方言ホド、凶歲ニハ山中民採テ食之、何首烏ノ類ナリ。

〔大和本草八〕蔓藤袴 莖葉如豌豆、花長垂ル、事如藤花、色モ紫ニテ美ハシ、蔓長ク方ニシテ廉

アリ、葉ノ付タル小枝ト花付タル小枝ト一處ニ相對シ、每節ニ生ズ、小枝ノ末ニ各鬚三條アリ、鬚

ノ長ニ寸許、括蕷ノヒゲノ如クマガレリ、冬ハ莖葉根枯。

蔓藤袴